

## 大きく変わる学校 3コース制実施

東大ジュニア・医科ジュニア・難関大ジュニア

### 江戸川学園取手中学校



江戸川学園取手中・高等学校は1978年創立の新しい学校です。開校わずか丸2年あまりで夏の甲子園に出場して注目されましたが、スポーツに特化した学校ではなく、20年以上前から医科コースを新設するなど、茨城県屈指の進学校で、文武両道の学校です。今年は医学部医学科を中心に、大学合格実績が大きく伸びています。開校当初は高校のみの学校でしたが、1987年に中学を開校して中高一貫教育を開始、2014年には小学校も開校して、小中高12年間一貫教育を目指しています。2016年度から、中学でもコース制を導入、生徒の進路希望の実現に向けて、さらに指導体制を強化していきます。

#### 1. 中学でのコース制について

江戸川学園取手中・高等学校は、今春まで中学は単一コース、高校は医科コースと普通コースの2コース制の募集で、中学からの内部進学生が高校の医科コースに進学を希望する場合、成績で選抜され、高校からの入学生と高1から混合クラスです。高校の普通コースに内部進学する場合は、高1・高2では内部進学生と高校入学生が別クラス、さらに高2ではそれぞれが文系・理系に分かれますが、高3では合流して、文理それぞれ東大、東工大、一橋大、筑波大等の志望大学ごとのクラス分けとなっています。

来春からは中学の入学段階から東大ジュニア、医科ジュニア、難関大ジュニアの3コース制となります。東大ジュニアと医科ジュニアは1クラスずつが予定されています。入試段階では、東大ジュニア・医科ジュニアにあまりレベル差を設ける予定はなく、上位コースが2クラス編成され、難関大ジュニアへのスライド合格も実施します。

高校の医科コースは3年間クラス持ち上がりで、専用カリキュラムや医師講話がほぼ毎月実施されたり、1日医師体験や医療系ボランティア活動を実施するなど、課外活動も普通コースとは別の運営ですが、中学ではこうした別運営は行わず、進級時や高校への内部進学時に、希望と成績で難関大ジュニアから医科ジュニア・医科コースへの移動を可能にします。また、東大コースについても現在は普通コースの高2で東大を狙うクラスが編成されますが、中

学生が内部進学する時点で高1からの東大コースが編成される予定で、東大を目指して早めに準備する体制を強化します。こちらを進級時や高校への内部進学時に、希望と成績で難関大ジュニアから東大ジュニア・東大コースへの移動を可能にします。

#### 2. 今春の大学合格実績

国公立大は東大10名、京大2名、一橋大3名など総計130名、私大は早大56名、慶應大33名、上智大14名、東京理科大100名など総計967名、医学部医学科は、筑波大医学群医学類5名をはじめとして国公立計27名、私大は順天堂大医学部3名をはじめとして総計55名で、合格者総数82名と、昨年の47名から大幅に増加しています。

#### 3. 特色あるプログラムについて

同校の道德教育は友人・家族関係・思いやりや公德心といった内容ばかりでなく、国際社会や文化の多様性を学ぶなど、グローバル化に対応する教育も積極的に進めていて、2013年度からはアメリカでのアカデミックツアーを実施するなど、海外大学進学対応も強めています。

#### 4. 2016年度入試について

今春と同様で、1回は1/17、2回は1/25、3回は2/4、各4教科で募集定員は各回合計で東大ジュニア・医科ジュニア各30名、難関大ジュニア180名です。なお、来春から1回に本校会場とは別に水戸会場として水戸駿優予備校(水戸駅北口徒歩2分)でも実施します。

大きく変わる学校 大妻中野フロンティア

グローバルリーダーズクラス、スタート



## 大妻中野中学校

大妻中野中学校・高等学校は1941年に高等学校として設立されました。1995年に中学を開校し、中高一貫校となります。2008年に高校募集を停止、完全中高一貫校になっています。国公立大を意識したアドバンストコースと難関大を目指すコアコースの2コース制でしたが、2015年度から文部科学省のスーパーグローバルハイスクール(SGH)のアソシエイト校に認定されたことを受けて、2016年度から新たにグローバルリーダーズコース(GLC)を新設、グローバル入試も新設することになりました。

### 1. GLC設置の経緯

現代は、グローバル社会のどのような場面でも、リーダーシップを発揮できる女性の育成が求められています。「世界のどこでも通用する力」「国際理解・ダイバーシティー力」「イノベーション実践力」「コミュニティ創り・共生・協働力」「課題の解決に立ち向かえる人間力」を身につけた女性です。これは長年実践してきた大妻教育の目標そのものです。今回、SGHアソシエイト校に認定されことを受けて、将来は全校生徒が、建学の精神「学芸を修めて人類のために」を国際社会に発信し、実践できる力を身につけることを目標とし、その先導的な役割を果たすコースとしてGLCを設置することになりました。

### 2. GLCの内容

このコースは、新設するグローバル入試の入学者と帰国生・インターナショナルスクール出身者を中心とし、海外大学、国内のスーパーグローバル大学、国内難関大学の国際系・外国語系学部への進学が目標です。英検4級程度以上の生徒ばかりですが、英語の授業はさらに習熟度別に分かれ、上位生はさらに伸ばします。週6時間のうち4時間はネイティブ教員が日本語を使わずに行い、「読む」「聞く」「話す」「書く」の4技能をバランスよく伸ばすほか、研究テーマを決めて調べたり話し合ったりするプロジェクト型学習も実施します。日本人教員は週2時間で文法などを中心に学習します。卒業時には海外大学での今後の授業を踏まえて、全員TOEFL iBT 57点以上、TOEIC 750点以上を目指します。ま

た、フランス語も学習して視野を広めるほか、中1で国内の英語キャンプ、中2でカナダ体験学習が必修(他のコース生は選択)、中3以上ではオーストラリア、フランス、ニューカレドニア、アメリカ、ニュージーランドの短期留学を実施します。なお、数学は習熟度別、国・理・社はクラス単位の学習です。

### 3. SGHプログラム

東京外語大、上智大等や企業と連携したフィールドワークを含むプログラムを実施、課題発見・解決能力を育てます。こちらは今年度から開始していて、GLCだけでなく他のコース生も参加できます。

### 4. 入学後のコース・クラス編成について

コアコース・アドバンストコースとも高2から文系と理系に分かれます。GLCは単一コースです。中3進級時以降は、本人の希望・成績等によって毎年コースの移動が可能です。

### 5. 2016年度募集について

コア選抜は2月1日午前4科・定員66名、アドバンスト選抜は3回実施で、1日午後2科、2日午後2科、定員は各50・40・30名です。今春同様、コア選抜からのアップスライド、アドバンスト選抜からのスライド合格があります。

グローバル入試は英検4級程度が出願資格で、1日午前で2科+英(英は150点満点に換算)です。帰国入試は3回実施で11月28日と1月16日が各2科+面または英+面、2月3日は英+面、グローバル入試と帰国入試合計で定員35名、アドバンスト・コアクラスへのスライド合格があります。

## 大きく変わる学校 英語特別枠入試

スーパーアドバンス・イングリッシュコース新設



### 駒込中学校

駒込中学・高等学校は1682年創立の天台宗の学校「勸学講院」がその源流で、1926年、宗門外からの生徒も加えて普通教育を実施する「駒込中学校」になりました。戦後は新制の駒込中・高校となり、もともと男子校でしたが1952年に女子部を設置、1966年には共学化します。中学はスーパーアドバンス、アドバンスの2コース制ですが、2016年度からさらにスーパーアドバンス・イングリッシュコースを新設し、英語に強い人材育成に努めます。また、特待入試で英語特別入試を実施します。

#### 1. コース新設のねらい

国際化時代を迎えて、いろいろな場で、英語の重要性や必要性が高まっていると論じられています。また、小学校では英語が教科として必修化される方針になっていて、さらに東京オリンピックの開催が決定したことなども手伝って、世間では英語熱が再燃しています。

しかし、英語はあくまでもコミュニケーションの道具の1つですから、「英語を操れる人間性」が一番重要です。単に英語を数ある教科の1つとして学ぶのではなく、日本語のように4技能(聞く・話す・読む・書く)をバランス良く習得し、「中身のある人間」として、相互理解がきちんと図れるように育成することが必要です。

一方、英語に大きな関心を持つ小学生が確実に増えています。例えば、英検の合格率や英語塾の入塾率の上昇がそれを裏付けています。こうした意欲を中学でも維持向上させるだけでなく、英語を学ぶことの意義を正しく伝え、さまざまな国の人々とのコミュニケーションがとれる人材を輩出していくため、スーパーアドバンス・イングリッシュコースを新設します。

#### 2. スーパーアドバンス・イングリッシュコースの学習活動

スーパーアドバンス・イングリッシュコースで学ぶことで中3終了時に英検準2級、高校卒業時は英検準1級取得が目標です。

通常授業では、5時間(5コマ)をユニットとします。4コマの後の5コマ目をオールイングリッシュによる活動とし、教師も生徒も英語を使う環境の中で4コマの内容を復習するサイクルで進めていきます。文法(文法)は、「webで駒込」というeラーニングシステムで学習単元の内容を提示、生徒たちはパソコン、タブレット端末、スマートフォンなどで自宅学習を行うことができ、授業では自習では無理な、高度で発展的な活動を行います。このeラーニングシステムの利点は予習・復習ともいつでも繰り返し学習が可能なところです。

英会話は1クラスを2分割(15名程度)で、日本人教師とネイティブとのティームティーチングで展開しますが、その中で発展的な活動を行うように指導します。1年後には校内のスピーチコンテストで、その学習成果を発表します。また、現在も通常授業よりもハイレベルな内容について、放課後に問題演習を重ねながら実力アップを図る特別講習を希望制で実施していますが、英語の特別講習は、このコースでは参加必修で計画中です。

#### 3. 2016年度入試について

1回2/1午前2科or4科30名、2回特待2/1午後適性検査or4科or2科+英(英語特別)40名、3回特待2/2午前4科or2科+英(英語特別)30名、4回2/5午前2科or4科25名、英語は英検4級レベル・リスニング含む、別途英検取得者への加点制度あり、英語特別はサンプル問題配付

## 大きく変わる学校 「四兎を追う」

### 医学クラス新設

## 埼玉栄中学校



埼玉栄高等学校は1972年に創立されました。1999年に中学校を開校しています。高校には保健体育科もあり、昨年度は中学4・高校20部が全国優勝で、部活動の強い学校の印象がありますが、「1兎：勉学に励む、2兎：部活動に打ち込む、3兎：学校行事に取り組む、4兎：他を思いやる心を持つ」の4つに主体性と創造性を持って全力で取り組もう、として、「四兎を追う」を学校生活の目標にしている学校です。昨年度は高校入学も含め、国公立大に40名合格しました。中1から難関大クラスを編成していますが、2016年度から「医学クラス」を新設します。図のように現在新校舎を建設中で、2016年夏に完成すると「医学クラス」も新校舎を使用します。

### 1. 医学クラスで育てる医師像

医学クラスは大学受験で医学部をめざす生徒のためのクラスです。「グローバルな視野とコミュニケーション力の育成に重点を置き、知識だけでなく『倫理観』・『使命感』・『責任感や的確な判断力と迅速な行動力』・『指導力と協調性』を持ち、さらに『他を思いやる心』にあふれた、世界で活躍できる医師」、一言でいえば「骨太の医師」を育てることが目標です。上記の「四兎を追う」学校生活が、世界で活躍できる医師を育成していく土台になります。

### 2. 医学部を目指す学習活動

中高6年間は医学部進学的基础づくりの時期です。医学部進学に向けて、高2までで高校内容を終えて高3は入試対策を行うとともに、英数を強化したカリキュラムを実施します。新設する進路指導センターで成績の一元管理を行い、到達が不十分な生徒には「わかるまで」「できるまで」の補習、補講を行うほか、オンライン学習システムを活用した個別の学習プログラムを利用して、基礎学力の定着を徹底します。20時45分まで使用できる自習室(希望者にはビュッフェでの夕食もあり)も設置し、学習をサポートします。受験対策では、長期休暇中に医学部進学の特別講座を実施、学力面で医学部に十分対応する力をつけていきます。

### 3. 医師としての人間性の育成

学業が優れているだけでは優れた医師とはいえません。学校として力を入れている部活動を通じてチームプレーの精神を養います。集団で患者を診ていくことが求められる現代の医療現場で「責任を持って他のスタッフと連携していく」トレーニングになります。さらに、前述の進路指導センターでは成績管理だけでなく、生徒たちの動機づけも担当することから、医療関係者による講演会や医療系施設での体験プログラムも実施して、最先端医療や医療の現場が抱える問題点などに触れる場を作っていくほか、文化祭や修学旅行などの学校行事でも医学クラス独自のプログラムを用意します。

また、「世界で活躍できる医師」を育成するため、希望制の第二外国語講座ではフランス語、ドイツ語、スペイン語、中国語、韓国語が選択できるほか、海外大学・大使館による講演会、短期や長期の留学も行います。こうした活動を通して、医師としての「幅広い実力」と「心の資質」を養っていきます。

### 4. クラスの移動について

医学クラス、難関大クラス、一般クラスとも、進級時に、成績と希望によって移動することができます。ただし、医学クラスへの移動は、成績だけでなく、医学部への強い意志が求められます。

### 5. 2016年度入試について

今後発表します。

## 大きく変わる学校 SHOWA NEXT

### 新コース制・グローバル留学コース入試

## 昭和女子大学附属昭和中学校



昭和女子大学附属昭和中学校は1920年に設立された私塾「日本女子高等学院」が端緒で、1922年には私立学校に昇格して5年制の高等女学部を併設、1927年に高等女学部は昭和高等女学校となります。戦後は三軒茶屋に移転、新制に移行し、1955年までに幼稚園から大学までを擁する総合学園になり、成績上位の希望者は高3から大学の授業を受講できるなど、ユニークな教育を実施してきました。2005年には文部科学省のスーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール(SELHi)に指定されるなど、国際教育を進めていて、2015年にはスーパー・グローバル・ハイスクール(SGH)の第1期指定校になりました。2016年度から、さらに取り組みを強化、コース制を実施します。

### 1. 「私が学ぶ」複線化カリキュラム

一人ひとりが自分の「得意」を磨き、自分の可能性にとことん挑戦できるように、2016年度からコース制を実施、カリキュラムを複線化します。入学時は「本科」「グローバル留学」の2コース、3年生からは「スーパーサイエンス」が加わって3コースを設定します。多様化する進路に対応し、「みんなと同じ」「全員一緒」から「私が選ぶ」学びへ。一人ひとりの輝く未来に向けて学びの深化を図ります。

### 2. グローバル留学コースの内容

高等部で実践している「昭和SGH」のプロジェクトにつながる、探究活動の主体性やプレゼンテーション能力を身に付け、グローバルな視点からの思考力と語学力を鍛える内容で、高1の夏から1年間、海外留学を行います。このため、中1でアジア研修旅行、中2で「ザ・ボストン・ミッションα」(昭和女子大のアメリカキャンパス「昭和ボストン」で実施する海外研修、本科コースの内容よりも実践的に英語を学びます)を実施するほか、中1から英語だけでなく数学・美術もイマージョン教育として、英語で授業を実施します。この他、中2から第2外国語として中国語も学びます。

### 3. 本科コースの内容

基本のコースです。中1・中2の日本探訪プログラム、中3では古都研修旅行を行い、日本の文化、地理、歴史の教養を深め、中1からの国語力強化プログラムや中3での国語授業増加で論理的思考力、

判断力、表現力を養います。また、中2で「ザ・ボストン・ミッション」、高1での研修旅行は国内だけでなく国外もコース選択可能とし、希望者には英国短期留学も実施、異文化を理解し、お互いを尊重するオープンで公平なグローバルマインドを育成していきます。カリキュラムは高校範囲を高2で終了し、高3は大学受験準備となります。

### 4. スーパーサイエンスコースについて

中3からの選択制のコースで、理系に関心がある、理系の進路に進みたい生徒のためのコースです。中3から理数の授業を増やすほか、屋久島でのフィールドワークを中心としたサイエンスアドベンチャー、高1からは大学連携プログラムとして最先端の生命、環境、科学技術を学ぶほか、本科コースと同様の海外プログラムも実施します。

### 5. コース移動について

スーパーサイエンスコースは本科・グローバル留学コースから希望と成績で決定、中3→高1でも移動できるようにします。本科→グローバル留学コースへは中1→中2、中3→高1の進級時にコース変更試験で可能で、生徒の希望の変化に対応します。

### 6. 2016年度募集について

本科コースは従来同様、2月1日・2日・3日の午前に入試を実施、定員は各60・50・30名です。グローバル留学コースは2月1日・2日の午前本科と並行して入試を実施、定員は各10名となります。両コース全回2科4科選択です。

## 大きく変わる学校 東大・医進コース

### 「八学」イノベーション

## 八王子学園八王子中学校



八王子学園八王子高校は1928年の創立で、当時は小学校を卒業したら入学する旧制中学校でした。戦後は学制改革で八王子中学校、高校になりましたが、公立中学校が整備されてきて、一旦中学校を廃止しています。しかし、中高一貫教育の大きな教育成果を再度実現したいと考えて、2012年中学校を再度開校しました。今年1期生が高校1年になったばかりの、まだ大学合格実績が出ていない学校です。中高一貫化から丸3年を過ぎて、学校自体も中高一貫教育の運営が軌道に乗ってききましたので、第2弾として、2016年度から「東大・医進コース」を新設、コース制を実施します。

### 1. 「八学」イノベーション

「八学」イノベーションは、開校4年目を迎えて中高一貫教育をさらに深度化していく取り組みの総称で、新コース制、アクティブ・ラーニング、学究ゼミ、戦略的語学教育の4つを柱とします。2020年の大学入試改革対応はもちろん、グローバル社会での実践力を育てることが目標です。

### 2. 東大・医進コース

2016年度から「東大・医進コース」を新設、従来のコースは「一貫特進コース」とします。東大・医進コースは全員特待生で、中1から週1回7時間授業、中3からは週2回とし、授業時間を増加します。予習を前提とした反転授業やアクティブ・ラーニングの手法を取り入れるだけでなく、本物の学問や社会とのつながりを意識させることで知的好奇心を最大限引き出し、東大や医学部受験に対応できる高い学力と思考力を養成していきます。東大・東工大・一橋大・京大・国公立大医学部が目標です。

東大・医進入試を新設し、一貫特進コースへのスライド合格も行いますが、進級時には成績と希望に応じて一貫特進コースから東大・医進コースに移動することもできます。一貫特進コースは高1から文系・理系に分かれますが、東大・医進コースでは文系でも理数系科目の重要性が高いため、文理選択は高2から緩やかにいき、完全分離は高3からの予定です。

### 3. アクティブ・ラーニング・学究ゼミについて

従来の「教員が一方通行で教える授業」を習得す

るインプット力重視の学習では、グローバル社会での実践力を身に付けるには不十分です。そのため、「学究ゼミ」を新設、東大・医進コースは必修、一貫特進コースは選択制で実施します。

学究ゼミは生命倫理、スポーツ科学、多元化社会、創造表現など、様々なテーマを用意した学際的的研究活動です。大学のゼミをイメージした取り組みで、生徒がそれぞれテーマを選び、研究活動を進めていくことで、自立した学習姿勢と他のメンバーとのコミュニケーション力(協働学習)を育成するとともに、成果を発表、今後求められるアウトプット力の育成にもつなげていきます。その際、有力なツールとなるのがタブレット端末で、2016年度を待たずに今年度の中1から全員で使用していきます。

### 4. 戦略的語学教育

英会話は1クラス3分割の少人数です。また、英語は自然に身につく環境が大切ですから、校内放送の多くを英語に切り替え、「いつでもどこでも英語」の環境を作ります。さらにオーストラリア語学研修を実施、語学力の向上だけでなく、日本とは異なる視野の違いを実感する場を作っていきます。

### 5. 2016年度入試について(予定)

東大・医進入試と一貫特進入試を実施します。また、適性検査型も新設します。東大・医進入試は1回が2/1午前・適性検査・10名、2回は2/1午後・4科・15名、3回は2/2午前・4科・10名、一貫特進入試は1回が2/1午前・2科4科・50名、同2回は2/3午後・2科4科・20名となります。

## 大きく変わる学校 男子校から共学化

伝統と蓄積を土台とした「共学化」

### 法政大学第二中学校



法政大学第二中学高等学校は、1939年に旧制の法政大学第二中学校として開校、戦後の学制改革で法政大学第二高等学校となり、1986年に中学を開校して中高一貫校になりました。開校当初から、法政大学の「自由と進歩」の学風を受け継ぎ、『人格』の完成をめざして国民的共通教養の基礎を築き、平和的で民主的な国家および社会の形成者を育成することを目的とする」とする学則を掲げ、大学まで続く一貫教育を実践している学校です。開校以来男子校ですが、新校舎を建設、2016年度から共学化し、新たなステージに進化することになりました。

#### 1. 新しい学校像

生徒一人一人が、様々な人々とのつながりを大切にし、試行錯誤や模索を通じて「自立的で人間力豊かなリーダー」となり、今日的な課題を主体的・能動的に担う人格となっていくことを目指す学校として、付属校ならではの豊かな「学び」を追究し、「学習と自主活動との高い次元で両立」を掲げ、「社会や地域に根ざした教育」を行っていきます。また、立地する武蔵小杉の文化活動・スポーツの拠点としての役割を果たせる新キャンパスをつくっていきます。

#### 2. 豊かな学びと中高大の連携

付属校ならではの「学び」として、従来から豊富な実験・実習、体験に支えられた深い理解、調べる・考える・発表する・討論する力の育成を重視してきました。共学化後もこの「学び」を深化させます。そのため、新校舎には各教室に最新の情報機器を設置、生徒がクラス単位でいつでも発表・プレゼンテーションを行える条件を整備するほか、教科の学習・自主活動を含め、法政大学との連携を重視、様々な行事や取り組みでは、大学生や卒業生とのつながりを大切にし、社会とつながった体験や学びに取り組んでいきます。

#### 3. 国際教育と環境教育

グローバル化が急速に進みつつあり、今までの常識が世界で通用しなかったり、揺るぎないと思っていた価値が根本から問い直される時代です。こうした局面では10代の時期に、どれだけ悩んだり、深く考えたりしたかで真価が問われます。一般的な海外

研修だけに留まることなく、日常の教科学習やHR活動、行事や生徒会活動などを通して、より良い形での「国際化」の推進となる取り組みを発展させ、生徒一人一人の国際的視野を育てていきます。

また、これまでも環境を重視した教育づくりとして、中学研修旅行や育友会教育研究所（公害研究部局）と連携した取り組みをはじめ、環境に対する様々な教科・生徒会活動を行ってきました。共学化後も法政大学環境方針のもと、環境を重視した学校づくりを進めていきます。

#### 4. 武蔵小杉を文化・スポーツの新たな創造の場へ

共学化を契機に、文武両面にわたって自主活動をさらに深化させていきます。特に文化系クラブを充実させ、自分たちの文化を社会へ発信する文化芸術の発信拠点づくりを行います。また、体育系クラブについても、充実した専門施設を活用し、それぞれの目標に向かって取り組める一層の環境整備を行います。これらの活動はキャンパス内に留まらず、今後さらに発展する武蔵小杉の教育機関として、地域社会に積極的に貢献する学校としていきます。

#### 5. 新校舎について

共学化に備え、今春から新校舎が一部使用開始となりました。来春までに全部が完成します。

#### 6. 2016年度募集について

今春と同様、1回は2月2日、2回は4日でどちらも4科、男女別定員で1回が男子100名女子40名、2回は男子50名女子20名です。また、1月10日に帰国生入試(2科+面)を新設します。

大きく変わる学校 英語特別枠入試に対応

クロスカルチャークラス、スタート

## 山脇学園中学校



山脇学園は1903年に高等女子實脩学校として設立された学校です。1908年に山脇高等女学校に改称、1935年に現在地に移転しました。戦後は1950年に都内女子校の中で最も早く短大を開設し、中高短大の一貫教育を行いましたが、女子も4年制進学が当たり前の時代になり、2011年3月に閉学しています。2009年から「山脇ルネサンス」として学園の改革に着手、中高は旧短大の施設も活用した新しい教育課程を開始、校舎も建て替えました。来春からは中学1年に「海外での活躍を志す国内生」と「海外経験豊富な帰国生」によるクロスカルチャークラスを新設、新しい教育に取り組みます。また、帰国生に限らない英語特別枠入試を新設します。

### 1. クロスカルチャークラス設置の背景

山脇ルネサンスの一環で、2011年に校内に「イングリッシュアイランド」と呼ぶ一角を設置しました。ゲートをくぐるとエントランス広場の周りに学校、レストラン、カフェ、様々なお店のミニ版が配置されていて、ネイティブ教員がその街の住人として、入ってきた生徒たちに接することで、日常的に疑似海外生活体験ができる環境です。また、中3からは選択制で英語チャレンジクラスを設置しました。このクラスはHRをイングリッシュアイランド内に置き、日本人とネイティブの2人担任で、英語以外の授業を除いて朝礼や終礼など、HR活動を英語で行い、イギリス語学研修にも参加します。

こうした取り組みで帰国生や小学校から英語学習に取り組んできた入学生が年々増加しています。現在でも中1の英語は、英語を初めて学ぶ「スタンダード授業クラス」と英語の学習歴のある生徒を対象とする「SG(スーパーグレード)授業クラス」に分けて授業を行っています。

### 2. クロスカルチャークラスの英語の授業

来春からは英語特別枠入試を新設、英語学習歴のある生徒と帰国生を主体とした中1クロスカルチャークラスをスタートします。入学時の英語力を基準に、「英検準1級・2級既得レベル」「準2級・3級既得レベル」「4級既得レベル」の3つのSG授業を設定して、それぞれの到達度に応じたハイレベルな英語の授業を行います。たとえば「英検準1級・2級

既得レベル」は、日本人の英語教員による週2時間の文法を中心とした授業と、ネイティブあるいはバイリンガル教員による週4時間のACE(American Classroom Experience)形式のオールイングリッシュの授業で、実践的な英語力をさらに伸ばします。「準2級・3級既得レベル」、「4級既得レベル」は文法を踏まえた授業とネイティブやバイリンガルによるACE形式の授業の比率が異なっていて、それぞれの到達レベルをさらに引き上げていきます。

### 3. 理科・社会について

クロスカルチャークラスは理社に、帰国生はさらに国語力に不安がある場合も考えられますので、週1回放課後に隔週で理科と社会の予習講座を実施します。さらに帰国生は必要に応じて国語の取り出し授業を行ってフォローします。

### 4. 中2以降のクラス編成について

中2進級時には合格した入試制度とは関係なく、改めて英語の習熟度の高い2クラスをクロスカルチャークラスとします。中学入学後に英語を始めた生徒も努力次第でこのクラスに入ることができます。

### 5. 2016年度募集について

一般入試は今年と同様、2月1日午前、2日午前、4日午前の3回、定員は各100・100・40名、4科です。英語特別枠入試は1日・2日・4日にそれぞれ一般入試に並行して実施され、3回計20名、2科と英語で、英語を理社と同様に評価します。帰国入試は12月3日、20名、2科・英語・本人面接です。